

「2019年12月期(第3回) 旅行市場動向調査」

一般社団法人 日本旅行業協会 (JATA) では、JATA会員各社および中連協会員各社へ調査モニターへの登録を依頼し、登録のあった644社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施しております。今回、12月期の調査がまとまりましたのでお知らせします。

《海外旅行DI》

DI値は3カ月前(7~9月)から-4ポイント低いマイナス19。3カ月後(1~3月)は-4ポイント低下しマイナス23。6カ月後(4~6月)は現況より-1ポイント低いマイナス20。

◆現況は3カ月前(7~9月)から連続しての低下となった。航空路線縮小の影響により韓国がマイナス、香港情勢が大きく影響しプラスで推移していたアジアもマイナスとなった。

《国内旅行DI》

DI値は3カ月前(7~9月)から-7ポイント低いマイナス11。3カ月後(1~3月)は-5ポイント低下しマイナス16。6カ月後(4~6月)は現況よりも-1ポイント低いマイナス12。

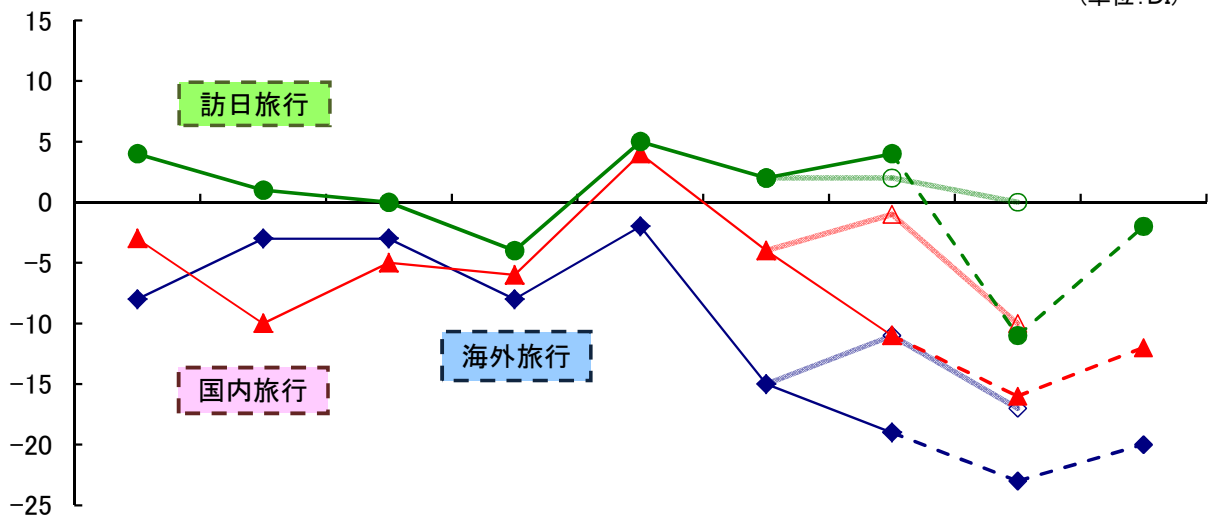
◆現況は台風等の自然災害や消費増税による消費マインド低下の影響からDI値が低下し、2期連続のマイナス値となった。また、シニアが2016年9月以来のマイナス値となった。

《訪日旅行DI》

DI値は3カ月前(7~9月)から+2ポイント高いプラス4。3カ月後(1~3月)は-15ポイント低下しマイナス11。6カ月後(4~6月)は現況よりも-6ポイント低いマイナス2。

◆現況は3カ月前(7~9月)の見込みより上昇したが、3カ月後はマイナスになる見込み。ラグビーワールドカップの効果で欧米や豪州からの景況感が上昇した。

(単位: DI)



	1年半前 (4~6月)	1年 3カ月前 (7~9月)	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
海外旅行全般	-8	-3	-3	-8	-2	-15	-19 ※-11	-23 ※-17	-20
国内旅行全般	-3	-10	-5	-6	4	-4	-11 ※-1	-16 ※-10	-12
訪日旅行全般	4	1	0	-4	5	2	4 ※2	-11 ※0	-2

※2019年9月期調査見通し数値

■旅行市場動向調査について

一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）では、JATA会員および中連協会員各社へ調査モニターへの登録を依頼し、会員1411社中、登録のあった644社を対象として、四半期ごとに「旅行市場動向調査」を実施し、その結果を発表しております。

「旅行市場動向調査」は、現況・先行き（3ヵ月後・6ヵ月後）についてのアンケートを実施し、旅行市場の動向を把握することを目的としております。

調査では各質問事項に対し「良い」「普通」「悪い」「取り扱っていない」で評価を求め、回答数から「取り扱っていない」（無回答を含む）の回答を除いたものを母数として各回答のシェアを算出し、「良い」を選んだ割合（%）から「悪い」を選んだ割合（%）を引いて、「D I」（=Diffusion Index ディフュージョン・インデックス）という景気動向指数に加工して発表しています。D I 値の範囲は、全て良い（100）から、全て悪い（-100）の間の評価となります。

◆調査概要

調査地域	： 全国
調査対象	： J A T A 会員各社、中連協会員各社の経営者など
調査方法	： インターネット調査
調査期間	： 2019年11月5日（火）～11月22日（金）
設定数	： 644社
回収数	： 276社
回収率	： 42.9%

◆種別について

「旅行市場動向調査」では、各業況を種別に分析しています。
各種別の取り扱い業務範囲と今回調査での回答件数は下記の表の通りとなっています。

種別	取り扱い業務範囲	社数	比率
第一種旅行業	海外・国内の募集型・受注型企画旅行の企画・実施、海外旅行・国内旅行の手配、及び他社実施の募集型企画旅行の代売を行うことができる。	184社	66.7%
第二種旅行業	国内の募集型企画旅行の企画・実施、海外・国内の受注型企画旅行の企画・実施、海外旅行・国内旅行の手配、及び他社の募集型企画旅行の代売を行うことができる。	38社	13.8%
第三種旅行業	海外・国内の受注型企画旅行の企画・実施、海外旅行・国内旅行の手配、及び他社の募集型企画旅行の代売を行うことができる。また、実施する区域を限定し、旅行代金の支払い時期を制限したうえで国内の募集型企画旅行を行うことができる。	54社	19.6%

この資料についてのお問い合わせは、JATA広報室までお願いします。
なお、本データはJATAホームページ <http://www.jata-net.or.jp> でご覧になれます。
TEL : (03)3592-1244

■海外旅行全般／客数の業況について

航空会社の日韓路線縮小や香港情勢の不安により、業況・客数ともに低下した。「第2種」が-17ポイント低下したのをはじめ、全ての種別において3カ月前を下回った。

総合

海外旅行全般の業況は、現況が3カ月前（7～9月）に比べて-4ポイント低下し、マイナス19。3カ月後（1～3月）がマイナス23、6カ月後（4～6月）がマイナス20。

客数も3カ月前（7～9月）に比べて-7ポイント低下し、マイナス18と低迷している。

種別の業況では「第2種」が-17ポイントと大きく低下したのをはじめ、「第1種」（-4ポイント）、「第3種」（-3ポイント）とも3カ月前（7～9月）を下回った。

現況は「韓国」が引き続きマイナス。全ての方面でマイナス圏に。

海外旅行全般は3カ月前（7～9月）から-4ポイント低下し、マイナス19。

客数も-7ポイント低下し、マイナス18。

・予約の発生が益々遅くなり、先行きの見通しが立てにくい状況が続いている。また集客の柱である韓国の情勢不安による予約の減少が止まらない。（第1種）

・GWの10連休でスタートは順調であったが、夏休み以降、日韓問題や需要の低迷が続き、年末のピークの出足も例年になく鈍い。（第1種）

・韓国は話題程減っていないが、むしろ香港が減っている。又、年末・年始休暇が、ゴールデンウィークの反動で減っていると感じる。（第1種）

3カ月後（1～3月）は引き続き低迷するが、6カ月後は僅かではあるが回復する見込み。

海外旅行全般の3カ月後（1～3月）は-4ポイント低下しマイナス23だが、6カ月後（4～6月）は+3ポイント上昇のマイナス20。

客数の3カ月後（1～3月）は-4ポイント低下しマイナス22。6カ月後（4～6月）は+2ポイント上昇のマイナス20。

・韓国方面は、現在はほとんどないが、現在の国際情勢改善次第で増えてくるのではと考えている。（第1種）

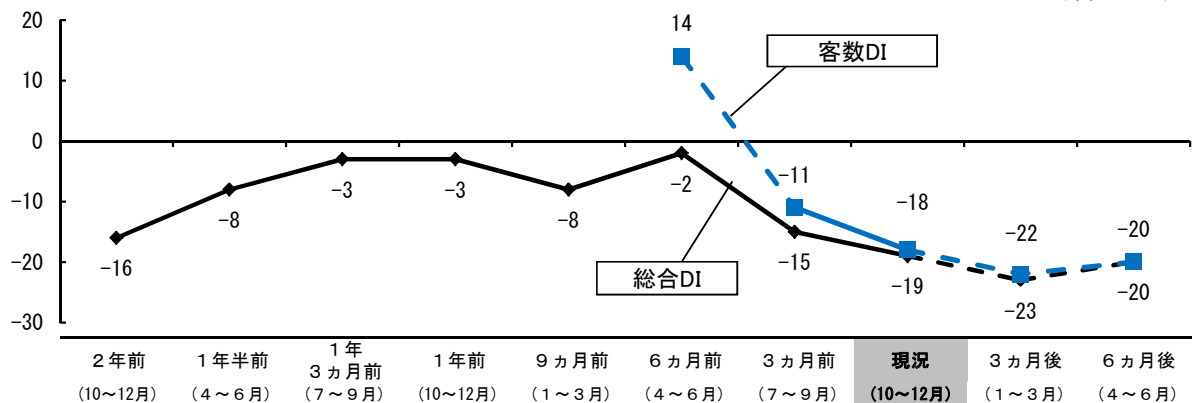
・韓国や香港が情勢の影響を受けて減少。韓国は少し戻りつつあるが、香港は先行きが見通せない。ベトナムやタイなどの東南アジアは伸びている。（第1種）

・2020年のオリンピックの影響はいまだ未知数である。（第1種）

海外DI値【総合+客数】

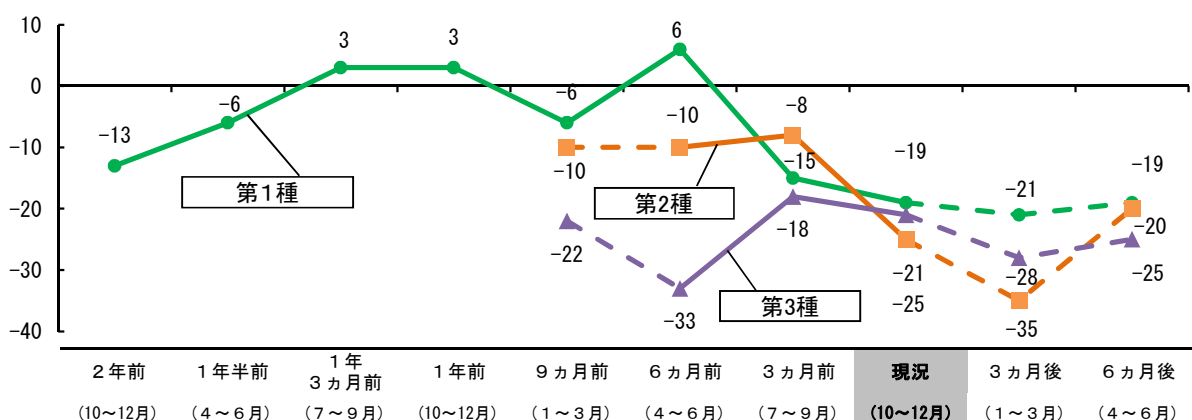
(N=215)

(単位：D I)



※「客数DI」は、2019年6月調査から聴取したため、以前のデータなし

種別総合DI値

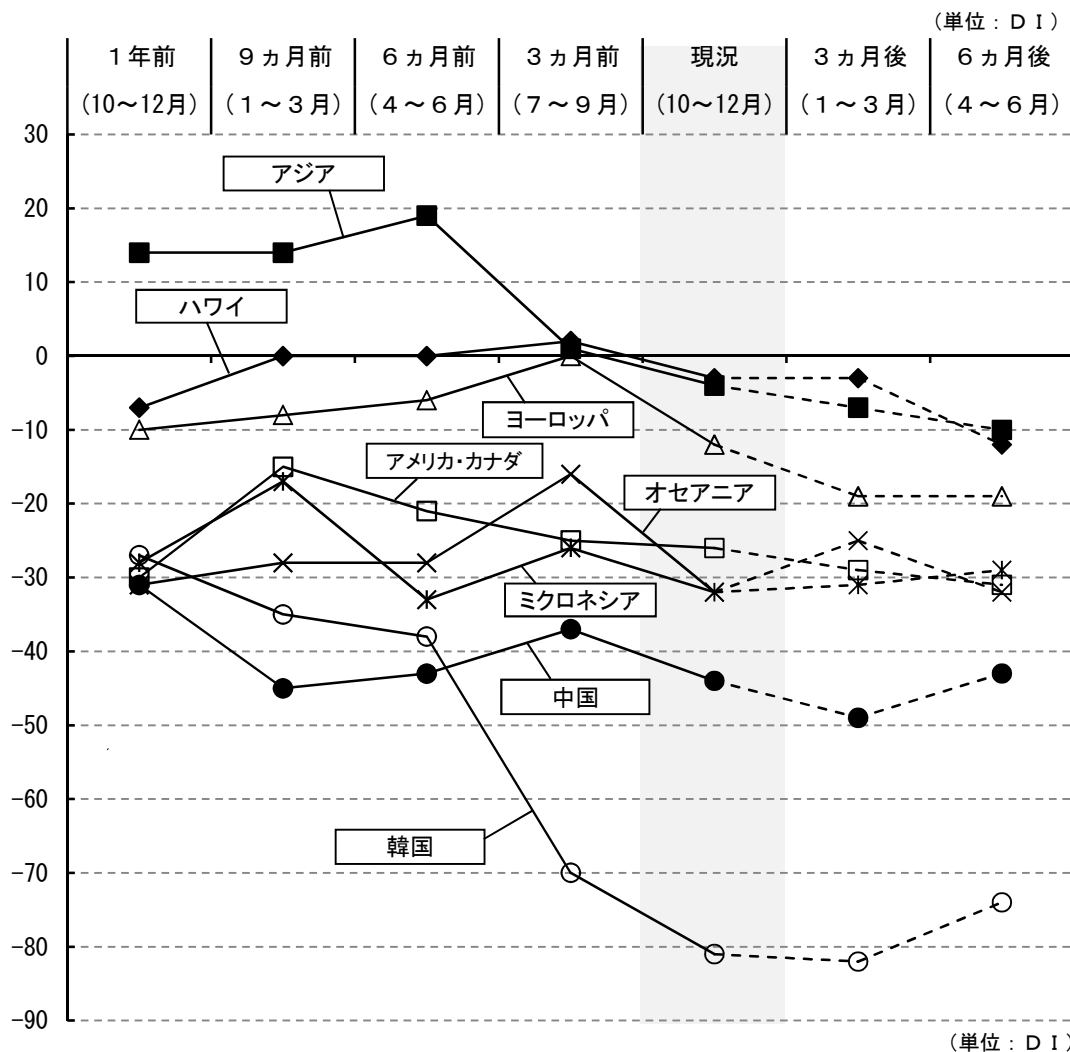


※「第2種」「第3種」は、2019年3月調査から分計したため、以前のデータなし

◆海外旅行の需要動向（方面別）

- 3カ月前（7～9月）にプラスであった「ハワイ」や「アジア」も、現況ではマイナスへ転じ、全ての方面でマイナスとなった。特に、「オセアニア」「ヨーロッパ」「韓国」は、3カ月前に比べて10ポイント以上低下した。
- 3カ月後（1～3月）は、「ヨーロッパ」や「中国」で低下が見込まれている一方、「韓国」は現況に比べて、-1ポイントと底打ちの兆しがみられる。

N:有効回答数
(N=215)



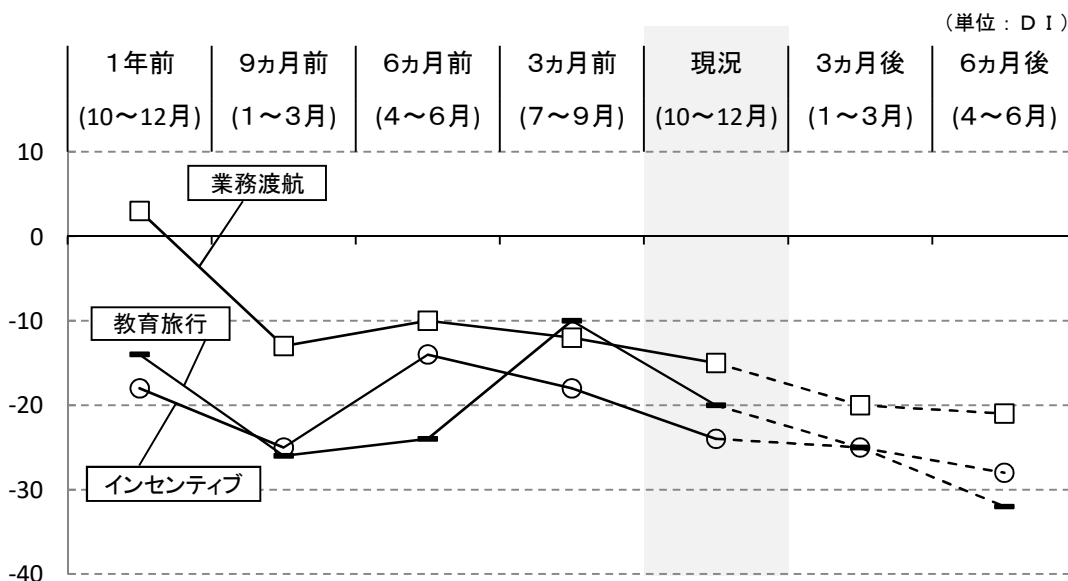
(単位：D I)

	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
ハワイ	-7	0	0	2	-3	-3	-12
アメリカ・カナダ	-30	-15	-21	-25	-26	-29	-31
ヨーロッパ	-10	-8	-6	0	-12	-19	-19
オセアニア	-31	-28	-28	-16	-32	-25	-32
ミクロネシア	-28	-17	-33	-26	-32	-31	-29
アジア	14	14	19	1	-4	-7	-10
中国	-31	-45	-43	-37	-44	-49	-43
韓国	-27	-35	-38	-70	-81	-82	-74

◆海外旅行の需要動向（団体旅行）

- ・ 3カ月前（7～9月）に上昇していた「教育旅行」が、現況では-10ポイント低下し、マイナス20となった。
- ・ 3カ月後（1～3月）は、「インセンティブ」が横ばいの他は、「業務渡航」「教育旅行」とともに減少の見込みである。6カ月後（4～6月）も低迷した状態が続く見込み。

N:有効回答数
(N=215)

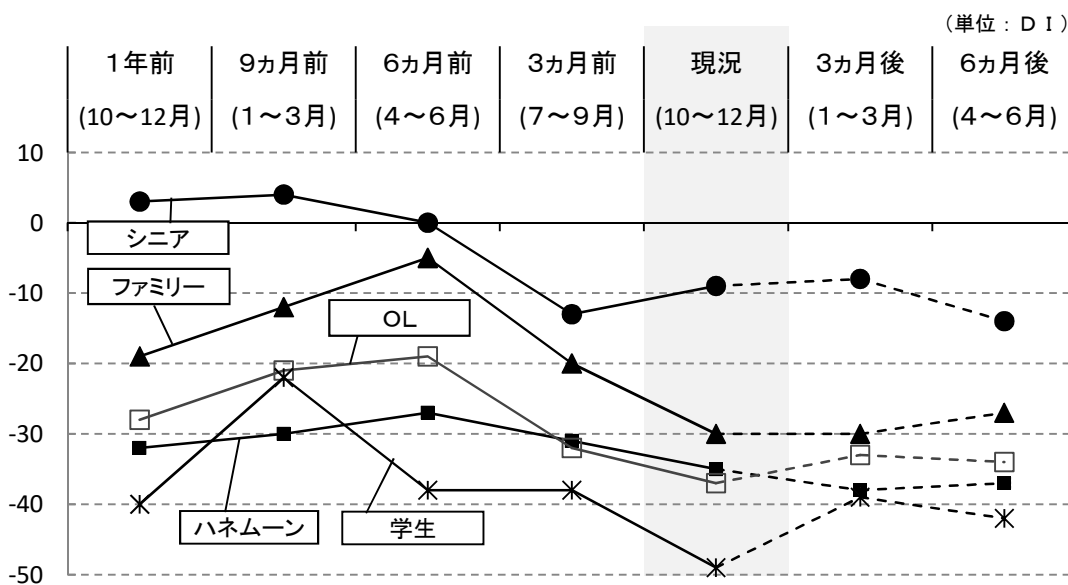


	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
インセンティブ	-18	-25	-14	-18	-24	-25	-28
業務渡航	3	-13	-10	-12	-15	-20	-21
教育旅行	-14	-26	-24	-10	-20	-25	-32

◆海外旅行の需要動向（個人旅行）

- ・ 現況は「シニア」が3カ月前（7～9月）と比べて+4ポイント上昇し、マイナス9となった一方で、「学生」（-11ポイント）、「ファミリー」（-10ポイント）の低下が大きい。
- ・ 3カ月後（1～3月）は、現況に比べて、「学生」（+10ポイント）やOL（+4ポイント）で上昇が見込まれる。

N:有効回答数
(N=215)



	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
ハネムーン	-32	-30	-27	-31	-35	-38	-37
ファミリー	-19	-12	-5	-20	-30	-30	-27
OL	-28	-21	-19	-32	-37	-33	-34
学生	-40	-22	-38	-38	-49	-39	-42
シニア (60歳以上)	3	4	0	-13	-9	-8	-14

国内旅行全般の業況について

自然災害や消費増税の影響を受け、業況は全体的に低下。3ヵ月後も低下の見通し。団体旅行はスコアの上昇がみられた。6ヵ月後は団体旅行の回復に伴い、3ヵ月後の見通しより上昇する見込み。

総合

国内旅行全般の業況は、3ヵ月前（7～9月）から－7ポイント低下。3ヵ月後（1～3月）の見通しも厳しい状況だが、6ヵ月後（4～6月）は回復する見込み。

客数についても大きく低下。3ヵ月後（1～3月）、6ヵ月後（4～6月）も低下の見込み。種別の業況では「第1種」（－10ポイント）、「第2種」（－3ポイント）は低下、対して「第3種」（＋7ポイント）上昇した。

現況は全体的に低下。一方で団体旅行（教育旅行）は回復を見せた。

国内旅行全般は3ヵ月前（7～9月）より－7ポイント低下し、マイナス11。客数はマイナス14。

・個人旅行については、今年のGW10連休が好調だった分、夏休み以降は落ち込みが続いている。来年春に向けては回復を期待している。（第1種）

・台風被害が旅行の需要を下げている。（第1種）

・増税・景況感から鈍化気味。（第1種）

3ヵ月後（1～3月）は引き続き厳しい状況が予想される。

国内旅行全般の3ヵ月後（1～3月）は－5ポイント低下しマイナス16。6ヵ月後（4～6月）は＋4ポイント上昇しマイナス12。

客数の3ヵ月後（1～3月）は－3ポイント低下しマイナス17。6ヵ月後（4～6月）は－1ポイント低下しマイナス18。

・相対的に取り扱い規模は減少傾向。決して需要が減少しているわけではなく、お客様の旅行会社のHPなどへ、直接予約を行っているのではないかと思う。（第1種）

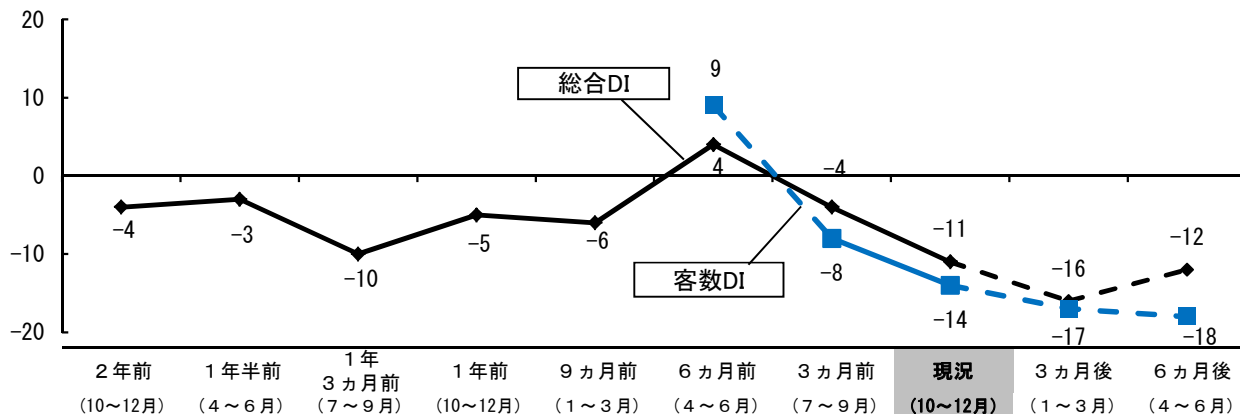
・個人旅行は店頭申込みではなく、ネット旅行社にシフトしている。（第2種）

・シニア層の直販化が加速しているように感じる。（第1種）

国内DI値【総合+客数】

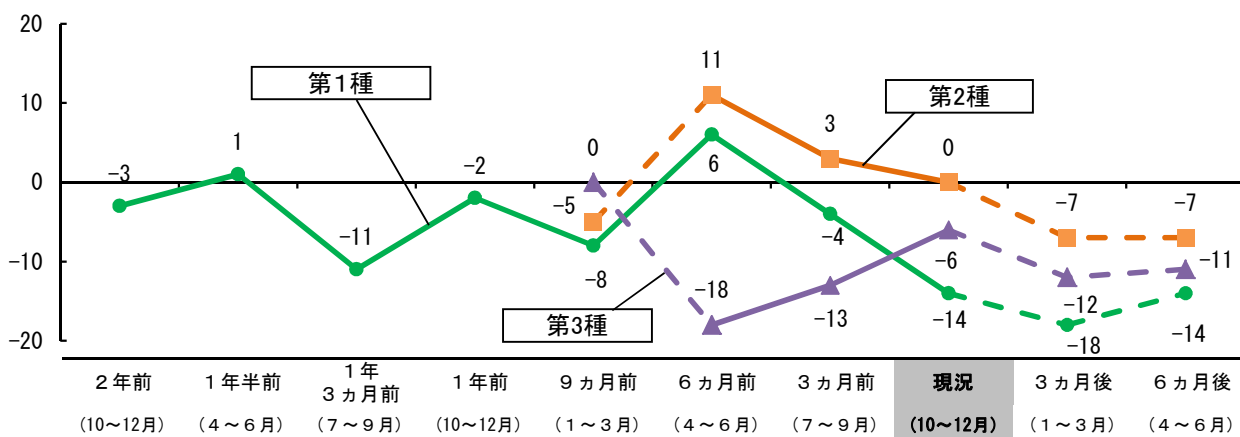
(N=170)

(単位：DI)



※「客数DI」は、2019年6月調査から聴取したため、以前のデータなし

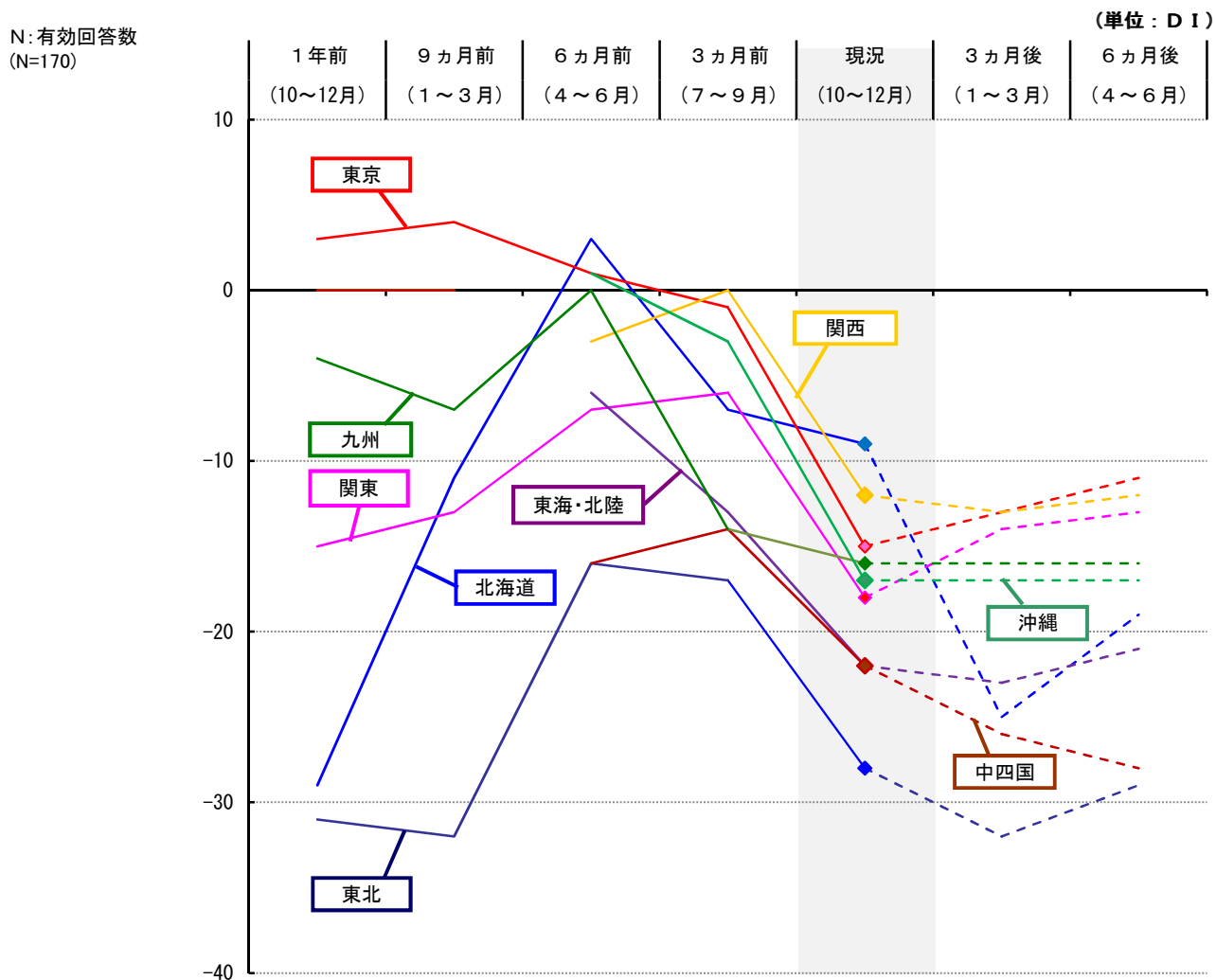
種別総合DI値



※「第2種」「第3種」は、2019年3月調査から分計したため、以前のデータなし

◆国内旅行の需要動向（方面別）

- ・ 現況は3カ月前（7～9月）に比べ、全ての方面で低下となった。なかでも「東京（TDRを含む）」「沖縄」で-14ポイントと低下の幅が大きい。
- ・ 3カ月後（1～3月）は「関東」（+4ポイント）、「東京（TDRを含む）」（+2ポイント）で上昇の見込み。6カ月後（4～6月）は加えて「北海道」「東北」に上昇がみられるが、その他方面は微増や横ばいの見通し。



(単位: D I)

	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
北海道 ■	-29	-11	3	-7	-9	-25	-19
東北 ■	-31	-32	-16	-17	-28	-32	-29
関東 ■	-15	-13	-7	-6	-18	-14	-13
東京(TDRを含む) ■	3	4	1	-1	-15	-13	-11
東海・北陸 ■	-	-	-6	-13	-22	-23	-21
関西 ■	-	-	-3	0	-12	-13	-12
中四国 ■	-	-	-16	-14	-22	-26	-28
九州 ■	-4	-7	0	-14	-16	-16	-16
沖縄 ■	-	-	1	-3	-17	-17	-17

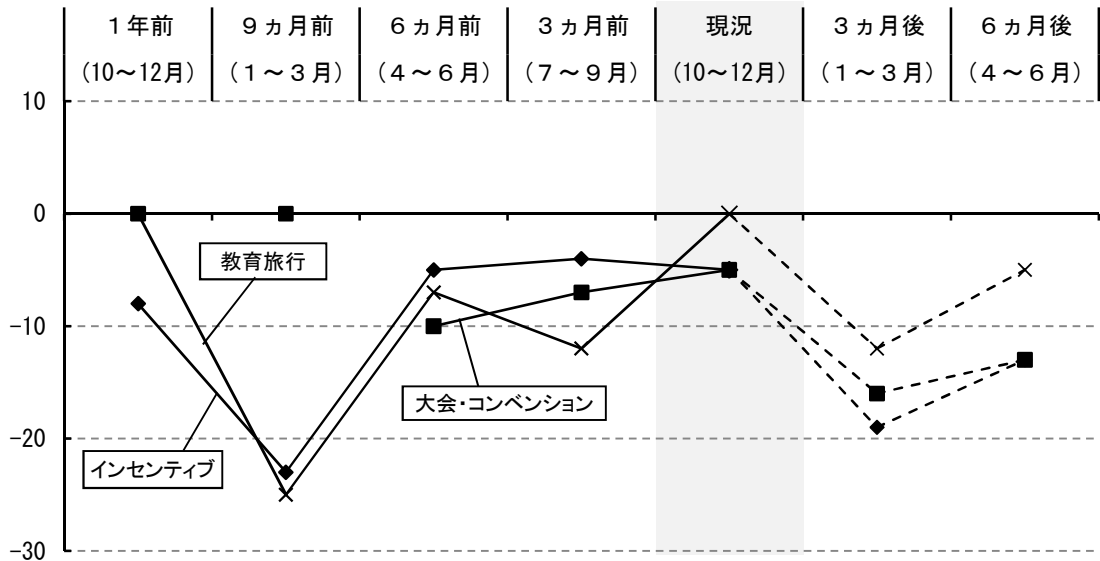
※「東海・北陸」「関西」「中四国」「沖縄」は、2019年6月調査で聴取方法を変更したため、以前のデータなし

◆国内旅行の需要動向（団体旅行）

- ・ 現況は3ヵ月前（7～9月）に比べ、「大会・コンベンション」が+2ポイント、「教育旅行」が+12ポイント上昇したが、「インセンティブ」は-1ポイント低下した。
- ・ 3ヵ月後（1～3月）は団体旅行全般で大幅な低下の見込み。6ヵ月後（4～6月）では持ち直しがみられるも厳しい状況が続く見通し。

（単位：D I）

N:有効回答数
(N=170)



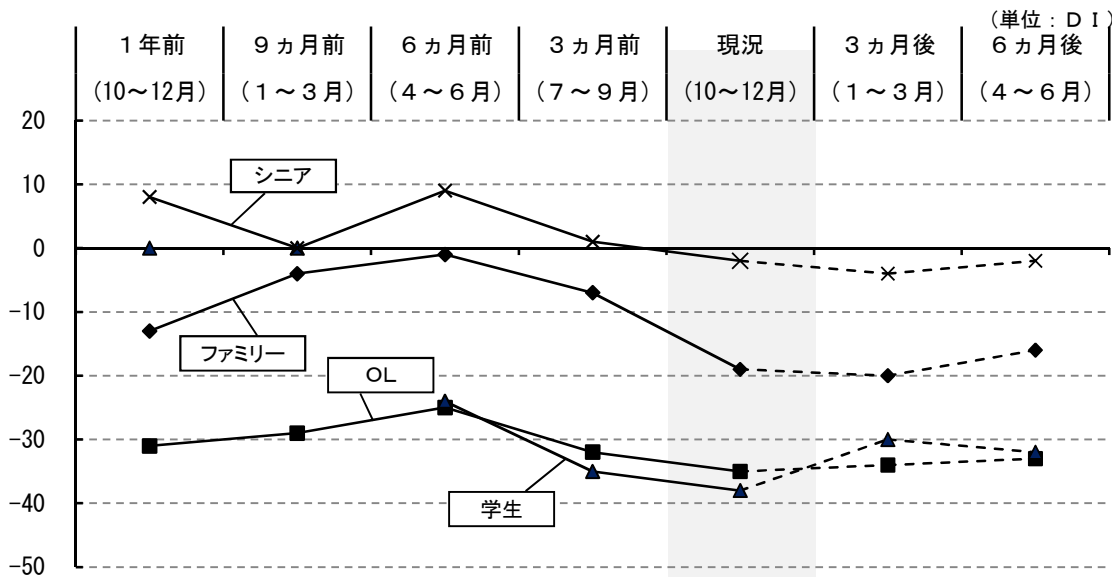
	1年前 (10~12月)	9ヵ月前 (1~3月)	6ヵ月前 (4~6月)	3ヵ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3ヵ月後 (1~3月)	6ヵ月後 (4~6月)
インセンティブ	-8	-23	-5	-4	-5	-19	-13
大会・コンベンション	-	-	-10	-7	-5	-16	-13
教育旅行	0	-25	-7	-12	0	-12	-5

※「大会・コンベンション」は、2019年6月調査から聴取したため、以前のデータなし

◆国内旅行の需要動向（個人旅行）

- ・ 現況は3ヵ月前（7～9月）に比べ、「ファミリー層」で-12ポイントの低下となった。他層でも若干の低下がみられ、堅調だった「シニア」もマイナス圏に低下した。
- ・ 3ヵ月後（1～3月）は、「学生」が+8ポイントの上昇となるが、「ファミリー」「OL」「シニア」は横ばい。6ヵ月後（4～6月）は「ファミリー」が+4ポイント、「シニア」が+2ポイント上昇の見通し。

N:有効回答数
(N=170)



	1年前 (10~12月)	9ヵ月前 (1~3月)	6ヵ月前 (4~6月)	3ヵ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3ヵ月後 (1~3月)	6ヵ月後 (4~6月)
ファミリー	-13	-4	-1	-7	-19	-20	-16
OL	-31	-29	-25	-32	-35	-34	-33
学生	-	-	-24	-35	-38	-30	-32
シニア (60歳以上)	8	0	9	1	-2	-4	-2

※「学生」は、2019年6月調査から聴取したため、以前のデータなし

■訪日旅行全般の業況について

業況・客数ともに好調で、引き続きプラス圏を維持しているが、3ヶ月後は低下の見込み。種別では、「第1種」が引き続き好調で、「第2種」もプラス圏に回復したが、「第3種」は低調。国・地域別では「欧州」「北米」「豪州」が上昇した一方、「韓国」「香港」は低下した。

総合

訪日旅行全般の業況は3ヵ月前（7～9月）から+2ポイント上昇してプラス4、客数も+2ポイント上昇のプラス7。

種別の業況では、「第1種」がプラス9とプラス圏を維持し、「第2種」が+2.9ポイント上昇してプラス圏に回復した一方、「第3種」は-5ポイント低下しマイナス1.6と不調。

現況は一部を除き上昇、引き続きプラス圏を維持する。

訪日旅行全般は3ヵ月前（7～9月）より+2ポイント上昇し、プラス4。

客数は+2ポイント上昇し、プラス7。

- ・インバウンドの伸びが鈍化する中、第4四半期はラグビーW杯の影響で販売、前年比も大きく伸びた。今後イベント関係で団体をどれだけ取扱えるかがポイントになってくる。（第1種）
- ・訪日旅客は対前年を上回り増えているが、韓国、香港は減少傾向にある。団体の数はまだ増えているが、FITの伸びの方が堅調である。（第1種）
- ・東北に目を向け始めている。（第1種）

3ヵ月後（1～3月）は現況のプラスからマイナスへ低下する見込み。6ヵ月後（4～6月）も低迷の可能性。

訪日旅行全般の3ヵ月後（1～3月）は、-1.5ポイント低下してマイナス1.1。6ヵ月後（4～6月）は+9ポイント上昇してマイナス2。

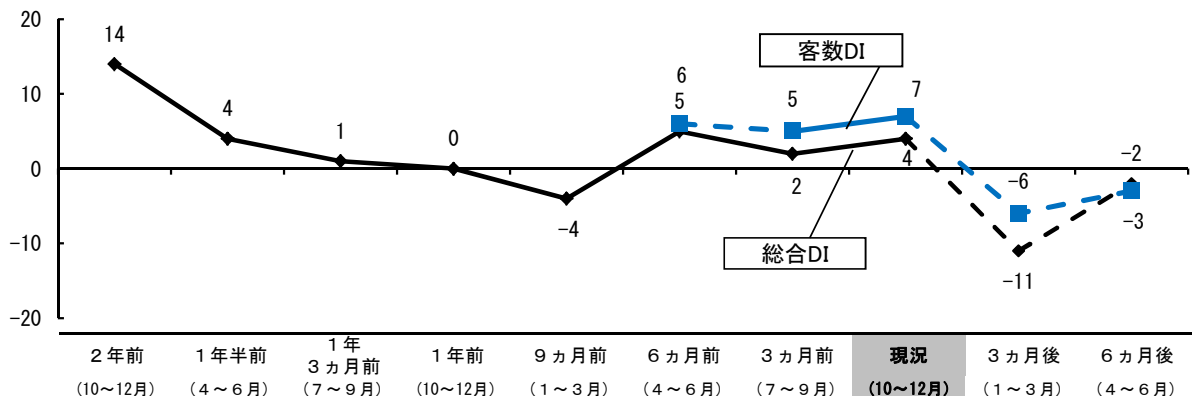
客数の3ヵ月後（1～3月）は-1.3ポイント低下しマイナス6。6ヵ月後（4～6月）は+3ポイント上昇しマイナス3と、見込みは低調となった。

- ・訪日外国人の日本旅行での楽しみ方が「モノ」から「コト」に変化している。買い物よりも、体験することへの変化を感じる。さらに、旅先にも変化あり、大都市だけでなく地方都市や農村にまで訪れている。（第2種）
- ・以前は旅行全てを手配していたが、最近は、ガイドだけの手配、ホテルだけの手配、車だけの手配となり、手配の一部は現地旅行社が直接するようになってきている。（第3種）
- ・年々ホテル代が上がっているが、依頼する側の予算希望が相変わらず厳しく、手配に苦勞している。オリンピックを来年に控えホテルの手配動向が気になる。（第1種）

訪日DI値【総合+客数】

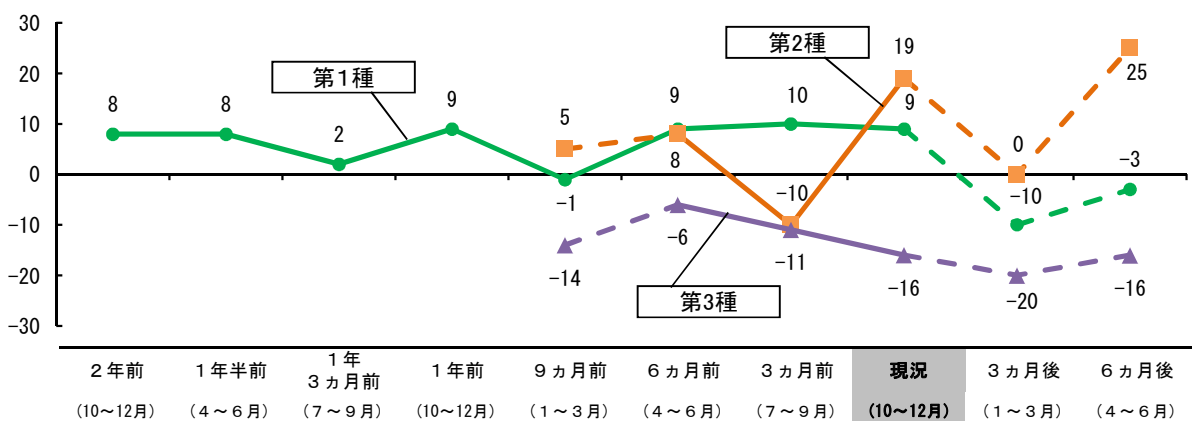
(N=102)

(単位：D I)



※「客数DI」は、2019年6月調査から聴取したため、以前のデータなし

種別総合DI値

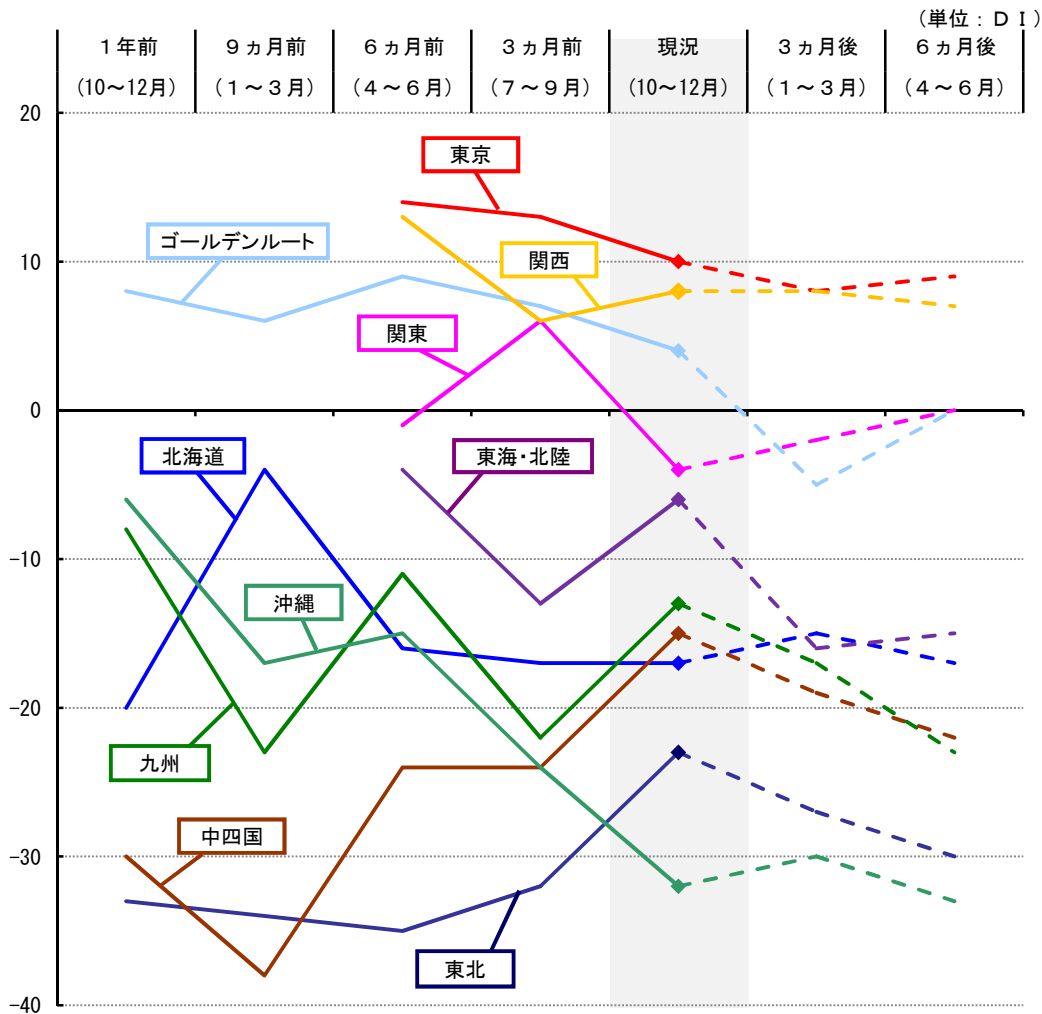


※「第2種」「第3種」は、2019年3月調査から分計したため、以前のデータなし

◆訪日旅行の需要動向（方面別）

- ・ 現況は3ヵ月前（7～9月）に比べて「関東」が-10ポイント低下した一方、「東北」「中四国」「九州」でそれぞれ+9ポイント上昇した。「東京」「ゴールデンルート」はやや低下したものの、いずれもプラス圏を維持している。
- ・ 3ヵ月後（1～3月）は「東海・北陸」（-10ポイント）、「ゴールデンルート」（-9ポイント）の低下が大きい。

N:有効回答数
(N=102)



	1年前 (10~12月)	9ヵ月前 (1~3月)	6ヵ月前 (4~6月)	3ヵ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3ヵ月後 (1~3月)	6ヵ月後 (4~6月)
北海道	-20	-4	-16	-17	-17	-15	-17
東北	-33	-34	-35	-32	-23	-27	-30
関東	-	-	-1	6	-4	-2	0
東京(TDR含む)	-	-	14	13	10	8	9
東海・北陸	-	-	-4	-13	-6	-16	-15
関西	-	-	13	6	8	8	7
中四国	-30	-38	-24	-24	-15	-19	-22
九州	-8	-23	-11	-22	-13	-17	-23
沖縄	-6	-17	-15	-24	-32	-30	-33
ゴールデンルート(関東⇄関西)	8	6	9	7	4	-5	0

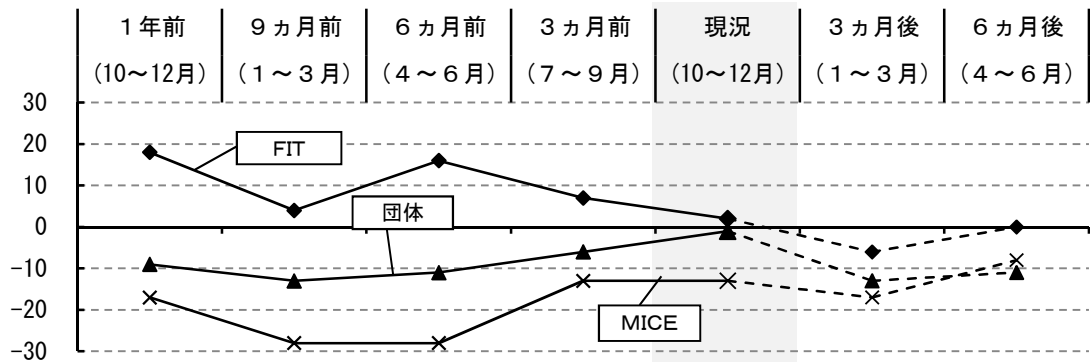
※「関東」「東京(TDR含む)」「東海・北陸」「関西」は、2019年6月調査で聴取方法を変更したため、以前のデータなし

◆訪日旅行の需要動向（顧客層別）

- ・ 現況は、「FIT」が3カ月前（7～9月）に比べて-5ポイントの低下ではあるものの、プラス圏を維持。「団体」は+5ポイント、「MICE」は横ばいであった。
- ・ 3カ月後（1～3月）は全ての客層で低下の見込み。

N:有効回答数
(N=102)

(単位:DI)



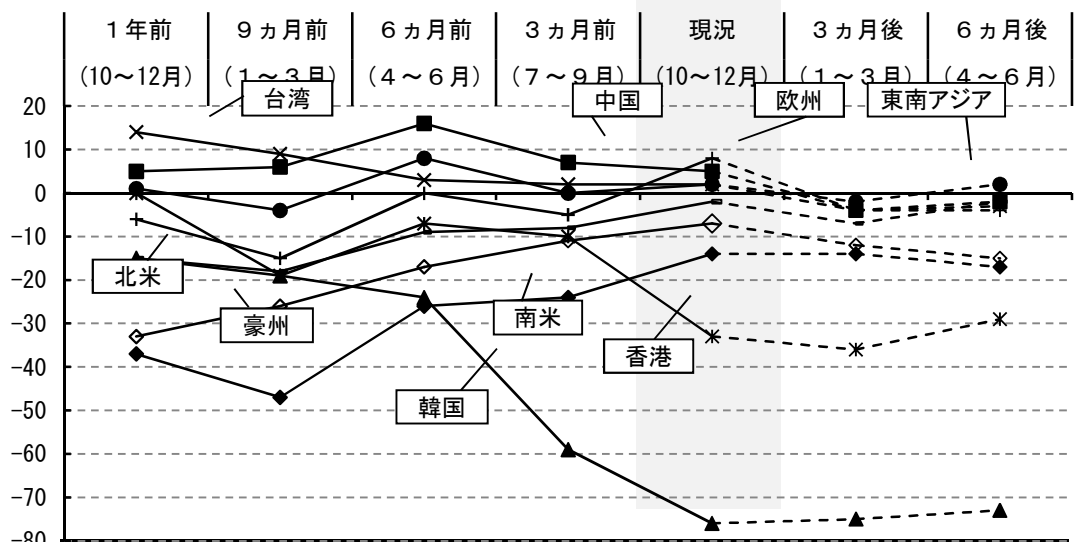
	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
FIT	18	4	16	7	2	-6	0
団体	-9	-13	-11	-6	-1	-13	-11
MICE	-17	-28	-28	-13	-13	-17	-8

◆訪日旅行の需要動向（国・地域別）

- ・ 現況は3カ月前（7～9月）に比べ、「香港」（-23ポイント）や「韓国」（-17ポイント）が大きく低下した一方、「欧州」（+13ポイント）や「北米」（+6ポイント）、「豪州」（+4ポイント）で上昇。
- ・ 3カ月後（1～3月）は「韓国」がプラス1ポイント回復する他は、横ばいもしくはやや低下の見込み。

N:有効回答数
(N=102)

(単位:DI)



	1年前 (10~12月)	9カ月前 (1~3月)	6カ月前 (4~6月)	3カ月前 (7~9月)	現況 (10~12月)	3カ月後 (1~3月)	6カ月後 (4~6月)
中国	5	6	16	7	5	-4	-2
韓国	-15	-19	-24	-59	-76	-75	-73
台湾	14	9	3	2	2	-4	-3
香港	0	-19	-7	-10	-33	-36	-29
東南アジア	1	-4	8	0	2	-2	2
欧州	-6	-15	0	-5	8	-4	-4
北米	-15	-18	-9	-8	-2	-7	-2
南米	-37	-47	-26	-24	-14	-14	-17
豪州	-33	-26	-17	-11	-7	-12	-15